

## 第 87 回及び第 88 回運営委員会での東京電力からのヒアリング事項

運営委員会事務局から東京電力に対して、以下の点について、第 87 回及び第 88 回運営委員会で説明いただくよう、事前に依頼。

### (1) 福島事業（賠償・復興・廃炉）

- ① 第 5 次追補の賠償と ALPS 処理水の賠償が並行的に進む中で、迅速な処理を実現するためのリソースの手当をどのように進めるのか。
- ② 福島の風評払拭・産業振興・帰還環境整備に貢献するための取組について、今後、何を目標としながら取組の発展を進めていくのか。
- ③ ALPS 処理水の放出に伴い、水産物の輸入禁止を実施する国・地域がある中、正確な情報の内外への発信、影響を受ける水産物等の消費拡大に向けて、具体的にどのような対応を実施していくのか。その際、東京電力グループのリソースをどのような形で動員していくのか。
- ④ 本格的な燃料デブリ取り出しに向けて、取り出し工法の決定やその他の様々な準備作業を今後どのようなスケジュールで進めていくのか。また、それらの作業に必要なエンジニアリングやプロジェクト管理等のオーナー能力については、今後どういった形で深化させようとしているのか。

### (2) 賠償・廃炉に年 5,000 億円の資金捻出

- ① 東京電力の実質的な収益力を把握する観点から、
  - a) 全社及び各基幹事業会社の実力収支<sup>※</sup>について、これまでどのような水準で推移していたと分析しているか。また、今後の見通しについて、どのように見込んでいるか。  
(※) 燃料調整費の期ずれなど他律的影響を控除した収支
  - b) 上記実力収支について、電力事業（コア）と、非電力事業（ノンコア）に分解した分析についてもお示しいただきたい。
  - c) 実力収支の変動について、上昇／低下の傾向について、その要因をどのように分析しているか。

- ② 東京電力の電力市場における競争力がどのように推移してきたと分析しているか。参考となるデータを用いつつ、ご説明をお願いしたい。
- ③ 送配電事業、燃料・火力事業、再エネ事業について、更なる利益拡大策・成長施策としてどのような取組を考えているか。

### (3) 原子力事業

- ① これまで発生してきた様々なトラブルの背景にある構造的な要因をどのように評価し、どのように改善していこうと考えているのか。
- ② 自律的に改善できる組織に生まれ変わるために、東京電力が備えるべき要素・機能をどのように分析し、どのように実現しようとしているのか。
- ③ 地元地域の信頼を得ていくため、具体的にどのような地域貢献を実施していこうと考えているのか。

### (4) 長い時間軸で年 4,500 億円規模の利益創出

- ① カーボンニュートラルや事業領域拡大のために必要な投資と、調達できる資金との間にギャップがある中で、どのようにこの課題を乗り越えようとしているか。
- ② 新々総特以降、包括的なアライアンスの実現に至らなかった点について、具体的事例に即しつつ、何が課題であったと捉え、どのような条件が満たされれば実現できると考えているか。また、今後、実現に向けて、どのような取組が必要と考えているか。
- ③ 東京電力の企業価値をどの程度の水準と分析しているか。参考となるデータを用いつつ、ご説明をお願いしたい。
- ④ 成長戦略として海外での事業展開についてどのような戦略を考えているか。
- ⑤ カーボンニュートラルを収益の軸としていく上で、どのような事業構造変革を図ろうとしているのか。今後の内外無差別卸売の進展への対応や、第四次総特で掲げた付加価値の高いソリューションの提供といった電気販売以外の収益源の獲得等に触れながらご説明をお願いしたい。